

「プロローグ・エピローグ」の意見に対する決定事項

委員名	意見の概要	和光市史編さん委員会決定事項
1 寄口昌宏 委員	P388 二つのグラフの表示について、変化がありませんので、これを掲載する意味がないと考えます。	変化のないグラフは削除し、都心に直結している和光市を表す地図を掲載します。
2 中蔦裕猛 委員	意見なし	
3 宮瀧交二委員長は、佐々木寛司監修者とともに、各委員の意見を取りまとめながら意見をいただきます		
4 鈴木敏弘 委員	別紙2 のとおり	
5 小柳一彦 委員	P388の気候、降水量のグラフはP387にあった方がよいと思います。	変化のないグラフは削除し、都心に直結している和光市を表す地図を掲載します。
6 田中明 委員		
7 田中俊 委員	意見なし	
8 伊藤芳夫 委員	P392下段後ろから3行目「福祉分野の立て直しが目下の課題」を「福祉分野の立て直すための市民の声を聞く行政の体制が目下の課題」とする。	福祉分野を立て直すことが課題であって、市民の声を聞く行政の体制は別の問題であるため、原稿のままとします。
	P393下段4行目「今後はいかに活用していくかということが課題となっている。」を「今後はいかに活用していくかということと、教職員の能力と本人の力量が課題となる。」に修正する。	「いかに活用していくか」の方法としては「教職員の能力を向上させる」ということを含んでいるので、原稿のままとします。
	P394下段後ろから7行目「自治会活動の停滞」の原因は、現在までまったく行政指導がなく、今後の介入が必要であると思う。	「自治会活動」に対する意見なので、和光市史に記載することはできません。
8 川曲幸生 委員		
10 佐々木 好評委員	「あゆみ」について漢字あるいはひらがなに統一した方がよいと思います。 P389上段22行目他 ～歴史のはじまりから昭和六〇年までの歩みを概観した。←漢字使用 P389下段7行目 本書を通して、郷土の歴史とそのあゆみを知り、←ひらがな使用	漢字表記に統一します。

「プロローグ・エピローグ」の意見に対する決定事項

委員名	意見の概要	和光市史編さん委員会決定事項
11 牧田忍 委員	別紙3 のとおり	
12 佐々木寛司監修者は、宮瀧交二委員長とともに、各委員の意見を取りまとめながら意見をいただきます		
事務局	別紙4－1・4－2 初校ゲラに青字修正を加えたとおり	

「プロローグ・エピローグ」の意見に対する決定事項

意見の概要	和光市史編さん委員会決定事項
1. 『プロローグ』の初稿ゲラについての意見書 プロローグについて「和光市の個性を探る」の冒頭に過去の詩人が登場するのは違和感を感じる。1975年から47年間の市民としての生活で、清水かつらはあまり知ることのない存在で、市の啓蒙活動で認識する程度の人である。市史の個性を探る冒頭を飾ることが適切か疑問である。 むしろ、4頁の埼玉県の中の和光市という個性がわかりやすいのではないか。「気象・地勢から見える和光の風土」は、個性という周囲との違いを示しているのか、板橋区や朝霞市と比較し、個性を強調すべき特徴ではなく、自然環境の説明に過ぎない記述と考える。「埼玉県のなかの和光市という個性」がふさわしい。	P386「11行目都会のオアシス～16行目残されている。」までを次のように修正します。 和光市シティプロモーション推進方針のキャッチフレーズ『アクセス最高 ちょうどいいまち ちょっといいまち 和光』が、「みんなでつくる地域応援サイト」が二〇二〇年に実施した「熱いキャッチコピーランキング」で第2位にランキングした。ポイントは、「アクセス最高」は交通利便性の良さを、「ちょうどいいまち ちょっといいまち」は、街に残る樹木や湧水など居心地の良さが市民の愛着を表現するフレーズになっていることから選定された。 その後に、清水かつらを紹介します。
2. 『エピローグ』の初稿ゲラについての意見書 プロローグの成人式実行委員の座談会と市北部への期待では未来を考えるヒントが多く、かるたや強みと弱みや四つの現場は、本文の記述のまとめかやや長文で要約できるのではないか。 エピローグとして興味深いのは、人材育成と長く住み続けたい魅力あるまちの記述で、市北部の近年の開発は、30年来北部の住民(仕事場)として、戸建てと新集合住宅の急増は未来を考える提案として適切と感じた。	エピローグとしてやや長いと感じられているということです。 内容的には適切と感じられているので、省略できる文章があれば、意向どおり短縮したいと考えます。
『プロローグ・エピローグ』の両方とも、その性格上長文すぎ内容を簡潔にすべきで「気象・地勢」は青2頁と重複している。エピローグの内容は未来志向に重点を置いた部分がふさわしい。	記事の重複はできるだけ避けるようにしますが、必要に応じて違う観点から再掲するか所も出てきます。
以上は個人的な感想だが、後期高齢者世代が未来志向の市史にどこまで提案が可能か不安を自覚している。ただ、市史といえども歴史記述であり、未来の人々からの批評を考慮すべきと考えている。歴史を学ぶものとして、専門外の近現代史や地方史の最近の成果が、今回の市史で生かされることを願っている。	新しい視点での市史ではあるが、歴史書としての記述を大切にしてほしいという感想です。

「プロローグ・エピローグ」の意見に対する決定事項

該当 ページ	意見の概要	和光市史編さん委員会決定事項
387下段 8行目	ともあれ←トル	ご意見のとおり削除します。
387末	激しい豪雨←トートロジー。激しい雨or急に豪雨 ...	ご意見のとおり「激しい雨」に修正します。
388下段 4行目	思いがある←誰の思いか。思いの主体を入れるか思いを可能性に変更。	3行目後半を「若い世代の転出を防ぐことができる可能性がある。」に修正します。
388下段 10行目	歴史資源→文化財や伝統	ご意見のとおり修正します。
391上段 11行目	最適である←適している。	ご意見のとおり修正します。
391下段 11行目	容易でないことも事実である。...	「市内を終の住み処にすることが容易ではなく、転入と同様に転出も少なくない。」と修正します。
391下段 17行目	地域に愛着を持っていないこと←愛着を持てる機会が少ないこと...	16行目から18行目を「子育て層や若者層に和光市のことを良く知ってもらうため、市政への・・・」と修正します。
394 上 段2行目	道德教育←道徳的な教育	原稿のままとします。
394 上 段12行 目	地域で子どもを育てていく体制←地域でも子ども育む第一歩...	ご意見のとおり修正します。
394 下 段10行 目	仕掛け←企画or制度	原稿のままとします。
394 下段後 から4行 目	確かに困難であろう。←困難なことも多い。	ご意見のとおり修正します。
394 下 段後半	地域の魅力づくり←みんなが暮らしやすいまちづくり	ご意見のとおり修正します。